

HELLO PSJ

National Institute on Agingに勤務して

古川 勝敏

私は2001年春よりメリーランド州ボルチモアに所在するNational Institute on Aging (NIA)の研究施設Gerontology Research Centerに勤務しています。日本語に訳すと米国国立加齢医学研究所となりますでしょうか。加齢医学、老年医学という名前から研究所の全員が、人間、各種動物、細胞の老化に関する研究ばかりしているのかと想像される方もいらっしゃるかもしれません。確かに細胞の老化の指標とされるテロメアや、早期老化をきたす代表疾患ワーナー症候群のワーナー遺伝子の研究をしている研究者等も少なくないのですが、必ずしも全ての研究者が老化に関する研究をしなければならないという規定があるわけではありません。純粋に心筋の収縮のメカニズムを研究している者もいますし、マウスのES cellの分化の研究なども盛んにおこなわれております。全ての個体、臓器、細胞は老化する宿命にあるということから、どんなバイオロジーも老化研究に繋がるということなのかもしれません。いずれにしても研究所の所長であるDan Longo氏は老化というテーマにこだわらずに、とにかくクオリティーの高い研究をなさいと事あるごとに訓示しています。

私はというとNIAの中のLaboratory of Neurosciencesというセクションに所属しており神経科学の研究に従事しています。研究内容ですがいくらかはNIAという研究所名に関連しているでしょうか。アルツハイマー病や各種の痴呆疾患に重要であろうと考えられているタウ蛋白質や、家族性パーキンソン病の原因遺伝子とされる α シヌクレインの機能の解析を行っております。またタウ蛋白質が細胞骨格蛋白質に結合することから、細

胞骨格蛋白質とイオンチャンネルおよびシナプス機能の関連も研究テーマのひとつです。研究の詳細に関してはこれまでの発表論文(J. Neurochem. 82: 945, 2002; Neurosci. 121: 25, 2003; J. Neurochem. 87, 427, 2003)を参照していただければ幸いです。

国立の研究機関に勤務することに関してですが、研究費が保証されていることから、研究費の申請をしなくていいことが非常にありがたい点です。多くの大学研究者が研究費申請に多くの時間とエネルギーを割いているのを聞くと、楽をしているのが非常に申し訳なく思います。また教育のdutyもほとんどないのも大変助かります。いわば実験、研究だけに好きなだけの時間を使える環境にあるわけで、もっと成果をあげなければいけないと思う毎日です。

ここボルチモアはワシントンDCから車で約1



National Institute on Agingの研究施設Gerontology Research Centerの外観。設置は1967年、リンデンドンソン大統領の時代です。

時間の距離に位置しており、このエリアには、NIH, Johns-Hopkins大学, George Washington大学, Georgetown大学等が位置し、日本人研究者も数多く活躍しています。共同研究やセミナーも活発におこなわれており、研究環境としては申

し分ないところなのではないでしょうか。生理学会の先生方も学会等でボルチモア-ワシントン界限にいらっしゃる機会がありましたら、お声をかけていただければ幸いです (E-mail: furukawaka@grc.nia.nih.gov).